

その他の隣接医学

耳鼻咽喉科学

《担当者名》教授 / 才川 悦子saikawa@

【概要】

歯科医の臨床において必要な臨床医学的事項を参照し、歯科臨床に応用するために、耳鼻咽喉科領域の解剖、整理を復習し、代表的な耳鼻咽喉科疾患についてその定義、疫学、症候論、治療法について教科書の記載を手掛かりに、簡潔なまとめを行う。

【学修目標】

耳科、鼻科、口腔咽頭科、喉頭科学領域の解剖整理を臨床症状と関連づけて説明する。
 代表的な耳疾患について、定義と難聴、めまいの病態、治療を説明する。
 代表的な鼻、副鼻腔疾患について、定義と病態、治療を説明でき、また、歯科疾患との関連を説明する。
 代表的な口腔、咽頭疾患について、定義と病態、治療を説明でき、歯科的治療の守備範囲と多科連携について正しく計画する。
 代表的な喉頭疾患について、定義と病態、治療を説明する。

【学修内容】

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
1	耳科学総論	聴器、平衡器、顔面神経の解剖生理を復習する。	才川 悦子
2	耳科学各論	聴覚障害を中心に、平衡、顔面神経疾患など耳科疾患の病態学を総覧する。	才川 悦子
3	咽喉頭科学	咽頭喉頭の解剖を復習し、発声発語機能との関連について考察する。器質的疾患を中心に咽喉頭の病態学を総覧する。	才川 悦子
4	鼻科学	鼻副鼻腔の解剖生理を復習し、歯科領域との関連をふまえて鼻副鼻腔疾患を総覧する。	才川 悦子

【授業実施形態】

面接授業

授業実施形態は、各学部（研究科）、学環、学校の授業実施方針による

【評価方法】

定期試験（筆記試験）（100％）

【参考書】

久保 武 ほか 著 耳鼻咽喉科学 第2版 金芳堂（Minor Textbookシリーズ）

【備考】

4回の講義で耳鼻咽喉科領域のすべてを講義することは難しい。教科書は特に指定しないが、医科用の教科書を参考に学習し、知識を補うことを勧める。

【学修の準備】

予習として、次講義内容を自分なりに参考書などで確認する（30分）

復習として、前回内容について疑問点をまとめる。（30分）

【ディプロマ・ポリシー（学位授与方針）との関連】

DP1. 安全で質の高い歯科医療を提供するために必要な専門知識に基づく問題解決能力と患者ケアのための診療技能とからなる専門的実践能力、および医療・医学研究の発展のために必要な情報・科学技術の活用能力を身につけている。

（専門知識に基づいた問題解決能力、患者ケアのための診療技能、情報・科学技術を生かす能力）

DP 2. 「総合的に患者・生活者を支える歯科医療」を提供するために必要な高い倫理観、他者を思いやる豊かな人間性および優れたコミュニケーション能力を身につけている。

（総合的に患者・生活者をみる姿勢、プロフェッショナルリズム、コミュニケーション能力）

DP3. より安全で質の高い歯科医療を実践し社会に適應する医学を創造していくために生涯にわたって自己および他の医療者との研鑽を継続しながら医療者教育と学術・研究活動にも関与できる能力を身につけている。

（科学的探究、生涯に渡ってともに学ぶ姿勢）

DP 4. 多職種（保健、医療、福祉、介護）と連携・協力しながら歯科医師の専門性を発揮し、患者中心の安全な医療を実践できる能力を身につけている。

（多職種連携能力）

DP 5. 歯科医療の専門家として、経済的な観点・地域特性を捉えた視点・国際的な視野を持ちながら活躍できる能力を身につける

(2026年度・歯学部)

ている。
(社会における医療の役割の理解)

【実務経験】

才川 悦子 (医師)

【実務経験を活かした教育内容】

耳鼻咽喉科医師としての実務経験を活かした講義をすることで、歯科医療の現場で役立つ知識、技術、態度の習得に寄与する教育を実践している。

【その他】

この科目は主要授業科目に設定している